

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域社会に貢献する、自立した人を育てる高校

地域社会とのつながりや普通科総合選択制ならではの多様な学びを通じて、生徒一人ひとりの興味、関心や学ぶ意欲を育み、地域社会を支える人づくりをめざす。

【育てたい力】

- 興味、関心や学ぶ意欲と確かな学力
- 人とつながる力（コミュニケーション力）と発信力（プレゼンテーション力）
- 将来の目標に向かって持続的に努力する粘り強さ
- 豊かな人権感覚、地域や社会に貢献する姿勢

2 中期的目標

1. 確かな学力の育成
 - ア 授業改善システムを年間サイクル化し、授業力の向上に取り組む。
学習の前提となる基本的な授業規律の確立を、学年あげて継続的に取り組む。
授業アンケートや日常の生徒との対話を通じて生徒のニーズや学習状況を把握し、わかりやすい授業づくりに取り組む。
公開授業や研究授業を通じて、組織的に授業改善に取り組む。また、ICTを活用した授業改善にも取り組む。
 - イ 金剛トータルステップアッププランをもとづく、人とつながる力（コミュニケーション力）と発信力（プレゼンテーション力）の育成
生徒の興味や関心、社会と繋がる意識を育てる課題解決型、探究型の「考える」授業づくりに取り組む。
今後の改編を見据え、普通科総合選択制高校の特色であるエリアの学びの成果を共有、発信する「エリア発表会」（2年次）を継続、発展させる。
2. 豊かな人権感覚の醸成
 - ア 新入生オリエンテーションをはじめ、学校行事やクラス活動における生徒相互の関わりや協働性を重視し、自尊感情や生徒相互の信頼感を醸成する。
 - イ 生徒の実態に即した課題を設定し、当事者の話を聴くなど共感に基づく人権学習を通じて、違いを認め他者を思いやる人権感覚を醸成する。
 - ウ 校外での実習、体験や発表、地域活動への積極的な参加を通じて自己有用感を醸成し、公共心やボランティア等社会貢献への意識を育てる。
3. 生徒支援体制の充実
 - ア 支援教育コーディネーターを教育相談委員会に配置し、校内の教育相談体制をより一層充実させる。教育相談委員会を中心に、支援や指導が必要な生徒に適切な支援・指導を行うことができる体制を確立する。
 - イ 支援教育コーディネーターは学年、担任、保護者と密に連携し、必要に応じてケース会議を開催し、支援策を検討する。
また、外部機関や専門家とも連携し、生徒、保護者に適切な助言、支援を行う。
4. 規範意識の醸成
 - ア 部活動加入を積極的に奨励し、生徒の学校生活の充実を図る。日々の部活動を通じて協調性や積極性、努力する態度を育てる。
 - イ 遅刻、頭髮、服装、原付、あいさつ、清掃等の指導等、基本的生活習慣やマナーの確立を通じて、社会性を育てる。
5. 進路実現
 - ア 各学年に「進路プロジェクトチーム」を設け、学年の学力生活実態調査結果や定期考査の振り返りを活用し、進路への意識づけに繋がる学習指導の充実を図る。
学力の高い生徒層については、学年の進路指導部、学習指導部、教科が連携し、早い時期から個別の適切な指導を継続的に行っていく。
学力不振の続く生徒層については、学年として面談や基礎的な学習指導に取り組み、学力向上や将来への展望を持たせる。
自分に合った進路を見出し、その実現に至るまでいねいな進路指導・支援を通じて、進路実現満足度 100%をめざす。
6. 機動力と一体感のある教職員体制づくり
 - ア 運営委員会を軸に、学校全体で課題を共有し、部署を越え一体となって課題解決、具体化にあたる教職員の協働関係を構築する。
 - イ 将来構想検討委員会を「府立高等学校再編整備方針」に対応する改編本部とし、来るべき改編に備えての情報収集と本校ならではの教育文化の継承について課題を整理、共有する。
7. 広報活動と地域連携の充実
 - ア 中学校の教員や生徒、保護者、教育関係者に向けて、丁寧できめ細やかな広報活動を展開し、本校のミッション、学びの特色を広く知らしめる。
 - イ 地域の学校や施設、市民団体と密接に連携し、「地域に根ざし地域とともに歩む金剛高校」の存在意義をより確かなものにしていく。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 1 月実施分] 数値は H26 の肯定的評価 < 【 】 内は H25 の肯定的評価 >	学校協議会からの意見																																																																								
<p>授業改善、学習指導</p> <p>「授業はわかりやすい。学習意欲が高まる。」</p> <table border="0"> <tr> <td>生徒</td> <td>58.1%</td> <td>【56.9%】</td> <td>1年</td> <td>51.4%</td> <td>【52.1%】</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>64.0%</td> <td>【47.1%】</td> <td>3年</td> <td>58.8%</td> <td>【69.6%】</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>100%</td> <td>【95.8%】</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>「授業での生徒の学力を伸ばす工夫。」</p> <table border="0"> <tr> <td>生徒</td> <td>67.5%</td> <td>【64.6%】</td> <td>1年</td> <td>63.6%</td> <td>【70.1%】</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>74.3%</td> <td>【51.9%】</td> <td>3年</td> <td>64.9%</td> <td>【71.4%】</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>100%</td> <td>【90.0%】</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>「授業は静か。勉強に集中できる。」</p> <table border="0"> <tr> <td>生徒</td> <td>63.1%</td> <td>【57.4%】</td> <td>1年</td> <td>65.9%</td> <td>【56.0%】</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>61.2%</td> <td>【54.1%】</td> <td>3年</td> <td>62.2%</td> <td>【61.7%】</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>100%</td> <td>【89.8%】</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>「生徒の学力向上に熱心な先生が多い。」</p> <table border="0"> <tr> <td>生徒</td> <td>67.6%</td> <td>【63.6%】</td> <td>1年</td> <td>65.6%</td> <td>【74.9%】</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>75.5%</td> <td>【46.9%】</td> <td>3年</td> <td>62.3%</td> <td>【76.4%】</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>100%</td> <td>【94.1%】</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	生徒	58.1%	【56.9%】	1年	51.4%	【52.1%】	2年	64.0%	【47.1%】	3年	58.8%	【69.6%】	教員	100%	【95.8%】				生徒	67.5%	【64.6%】	1年	63.6%	【70.1%】	2年	74.3%	【51.9%】	3年	64.9%	【71.4%】	教員	100%	【90.0%】				生徒	63.1%	【57.4%】	1年	65.9%	【56.0%】	2年	61.2%	【54.1%】	3年	62.2%	【61.7%】	教員	100%	【89.8%】				生徒	67.6%	【63.6%】	1年	65.6%	【74.9%】	2年	75.5%	【46.9%】	3年	62.3%	【76.4%】	教員	100%	【94.1%】				<p>第1回 7月12日（土）</p> <p>○共生推進教室については、金剛高校の良さを生かし、他の高校にとってもモデルとなるぜひいい取組みにしてもらいたい。 実施については、こまめにその取組みを発信し、在籍する生徒やその保護者にも理解を求めながら進めることが必要ではないか。</p> <p>○金剛高校の生徒は明るく元気がいい。加えて自分自身に自信を持っている、自己肯定感が高い生徒が多いという印象。ただ家の手伝いをしないなど生活力に乏しく、常識に欠ける側面が最近の高校生の特徴として見受けられる。学校行事や総合的な学習、クラブ活動等を時間の生活力や精神的な強さ、社会常識を備えた生徒を育ててほしい。</p> <p>○いじめ防止対策や教育相談など、学校として丁寧に取り組んでくれていることは十分理解できた。その一方で家庭内での虐待や家族関係の問題の把握はどうなのか。なかなか相談できず、一人で悩んでいる生徒もいるのではないかと。より丁寧な情報収集ときめ細やかな対応をお願いしたい。</p> <p>第2回 10月27日（日）【*生活文化エリアの障がい者との交流授業「秋祭り」を見学】</p> <p>○毎年秋祭りを見学して、取組みがどんどん整理され進化してきているのを感じる。参加する生徒も生き生きとしていて、積極的に人と関わろうとしているのを感じる。生徒の意識が高くなってきている。継続して取り組む中で培われてきているものがある。今後も創意工夫の中で継続して取り組んでいくことを期待したい。</p>
生徒	58.1%	【56.9%】	1年	51.4%	【52.1%】																																																																				
2年	64.0%	【47.1%】	3年	58.8%	【69.6%】																																																																				
教員	100%	【95.8%】																																																																							
生徒	67.5%	【64.6%】	1年	63.6%	【70.1%】																																																																				
2年	74.3%	【51.9%】	3年	64.9%	【71.4%】																																																																				
教員	100%	【90.0%】																																																																							
生徒	63.1%	【57.4%】	1年	65.9%	【56.0%】																																																																				
2年	61.2%	【54.1%】	3年	62.2%	【61.7%】																																																																				
教員	100%	【89.8%】																																																																							
生徒	67.6%	【63.6%】	1年	65.6%	【74.9%】																																																																				
2年	75.5%	【46.9%】	3年	62.3%	【76.4%】																																																																				
教員	100%	【94.1%】																																																																							

府立金剛高等学校

各項目とも昨年度と比較し上昇している。学年進行で見ても2年生3年生とも上昇している。授業規律の徹底、授業に集中できる学習環境づくりという点は昨年よりも改善が進んでいる。学年や教科での取組みの成果といえる。授業アンケートや生徒とのコミュニケーションをふまえての教員それぞれの工夫、努力が功を奏している。教師と生徒の肯定的評価の差は、昨年同様まだまだ大きい。実際、多くの教員が普段の工夫、努力を重ねているが、その工夫や努力が、生徒にとって授業のわかりやすさ、学習意欲の向上に繋がっていくには工夫と努力の質が求められている。差を縮めていくには、生徒の声に真摯に耳を傾け、対話の中で改善の道を探っていくこと、教員個々の努力とともに教員相互での協力、連携が求められている。引き続き、授業改善にしっかりと取り組んでいく必要がある。

学校の満足度

「金剛高校に満足している。」

生徒	81.6%	【82.2%】	1年	82.0%	【86.6%】
2年	81.8%	【71.6%】	3年	81.3%	【89.9%】

「エリアや授業は将来の役に立つと思う。」

生徒	85.3%	【85.0%】	1年	89.3%	【90.2%】
2年	86.6%	【79.4%】	3年	80.7%	【85.6%】

「普通科総合選択制高校アンケート」(3年)でも、

「普総選高校で学んでよかった」	90.6%	【91.8%】
普総選 19校平均	83.8%	【83.5%】

「卒業後の進路は自分が選択したエリアと関連があった」	69.8%	【71.9%】
普総選 19校平均	50.3%	【51.9%】

学校に対する満足度は昨年に続き80%を超えていて高い。担任をはじめ学年や教科担当の教員の丁寧な関わりの成果といえる。特に、3年生は、普通科総合選択制高校アンケートでは90%を超えている。エリア選択がその後の進路選択に役立つと肯定的にとらえており、3年生の70%近い生徒は実際に進路に関連があったとしている。普通科総合選択制高校の平均と比べてもかなり高い値である。普通科総合選択制高校である金剛高校が提供する多様な学びへの評価は高い。

安全で安心な居場所、クラスづくり

「クラスは一人ひとりが大事にされ話しやすい。」

生徒	83.9%	【79.2%】	1年	85.7%	【80.5%】
2年	86.9%	【81.6%】	3年	79.6%	【75.7%】

「先生は問題を見逃さず親身に相談に応じてくれる。」

生徒	69.9%	【66.6%】	1年	62.2%	【62.9%】
2年	74.0%	【58.2%】	3年	72.8%	【76.3%】

各学年とも生徒の自己肯定感、安心感については概ね昨年並みまたは上昇傾向にある。学年進行で見ても、2年生、3年生の肯定的評価が上がっている。担任のクラスへの丁寧な関わりとともに、学年団の教員がこまめに情報を共有し連携して生徒の相談や指導にあたっていることの現われといえる。

生徒指導

「学校生活全般の指導は適当である。」

生徒	79.4%	【75.2%】	1年	81.5%	【77.2%】
2年	78.4%	【63.5%】	3年	78.2%	【71.5%】

「遅刻、頭髪、服装、原付等の指導は適切か」

生徒	72.7%	【69.3%】	1年	70.6%	【71.6%】
2年	70.3%	【65.0%】	3年	77.0%	【83.9%】

学校全般の指導について概ね昨年を上回る肯定的評価が得られた。学年進行で見ても、2年生、3年生の肯定的評価は上がっている。個別の生活指導課題については、3年生は昨年に比べると低くなっているが、それでも学年進行に従って肯定的評価が上がってきている。生活指導部の教員や担任が丁寧に話し込み全教員が一致した姿勢で粘り強くその指導にあたっている。きっちりとした生徒指導で生活や授業の規律が守られている状況に対し、安心感や信頼感を持っている生徒が多い。

人権問題への理解、社会的課題への関心

「人権を学ぶ機会と人権問題への理解。」

生徒	83.5%	【84.1%】	1年	84.9%	【88.5%】
2年	78.7%	【83.6%】	3年	85.9%	【80.7%】

「総合等での新しい社会的課題を学ぶ機会があった。」

生徒	77.7%	【78.5%】	1年	71.1%	【84.0%】
2年	76.8%	【76.9%】	3年	84.5%	【75.2%】

「HRや発見(総合)で生き方や将来を考える機会があった。」

生徒	81.5%	【72.9%】	1年	83.2%	【91.6%】
2年	79.8%	【75.1%】	3年	81.4%	【82.0%】

○共生推進教室はいい取組みだと思う。そのスタートにあたって、金剛高校の良さをどう生かしていくか、ともに学んだり関わることで金剛の生徒たちにどんな学び、気づきが還元できるのか、学校としてしっかり考えておく必要がある。

○地域での金剛高校の人気は依然高い。学区撤廃でのデメリットは少ないのではないかと。地域から見て学校の変化がよくわかるのは、遅刻者数の減少と生徒のマナーの向上。その点で金剛は本当によく頑張っていると思う。そんな実績に加えて、特色ある取組みや地域との連携をどうわかりやすく発信していくかが次の課題ではないか。

第3回 2月7日(土)

○昨年エリア発表を見て、舞台上立って発表している卒業生たちが大きく成長しているのがよくわかり、感動した。他の中学校卒業生もまた同じように成長していると実感した。高校に生徒を送った中学校の教員として、卒業生の成長した姿を目の当たりにして、こんなうれしいことはない。先日の1月末の中学2年生の体験授業でも、大人しかった卒業生が後輩たちに堂々と話をしてくれた時も同じ感動を味わった。見違えるような成長で、学校に帰り当時の当該学年の教員とその成長を喜んだ。指導していただいている先生方の熱意と努力に敬意を表したい。

○エリア発表会は中学校と高校が繋がって生徒を育てていることを実感できる素晴らしい取組みだと思う。各エリアの発表で普総選が各エリアで具体的にどんな取組みをしていて、学校としてどんな生徒を育てようとしているのかもよくわかった。進路指導にもとても役立つので、市内の中学校の校長の間では中学2年担当の教員を見に行かせようと話し合っている。今年のすばるホールでの発表も楽しみにしている。今後ますます発展させてもらいたい。

○来年から始まる共生推進教室は、中学校で言うと支援学級のような位置にあると思う。共生推進教室の取組みがスタートすることで、共生の生徒だけでなく、療育手帳のあるなしに関わらず一般の選抜で入学してきた生徒への教員の見方がどう変わっていくかが問われている。この取組みを通じて、生徒理解、支援の裾野が広がってほしい。

○知識を伝え学力をつけて大学に進学させるだけでなく、総合的な学習の時間等で学ぶことの意味を考えさせてもらいたい。

○学校の満足度80%以上あるが、逆の見方をすれば20%近い生徒は学校生活に満足しきれない何かを抱えているとも言える。その課題を分析し、しっかり向き合ってもらいたい。そこに金剛高校がさらに進化していけるヒントがあると思う。

○人権意識調査で差別に直面した時、沈黙せず何らかの行動を起こそうとする意識が3年間で約10%上昇していることは大きな変化であり、成果と言える。学年がそれだけポジティブな集団として成長したということだ。先生方のこまめな生徒への関わりや声かけの中で、そこにいて安心できる、ホッとするという学年の雰囲気醸成され、その雰囲気の中で生活することで、より多くの生徒の意識が徐々に変わってきたのではないかと。

人権学習や総合的な学習について概ね昨年並みの肯定的評価が得られた。1年生ではスマホ SNS との付き合い方、デートDVや在日外国人問題、2年生では東北修学旅行を踏まえた震災支援に取り組んだ。3年は進路に関わっての人権学習など各学年で学年の課題をもとに人権学習や総合的な学習に取り組んだ。2年生、3年生は時間的な制約が厳しい中での学習ではあったが、生徒に生き方や将来を考えさせるきっかけとなる取り組みがある程度できたのではないかと。

3年間の人権意識の変化を比較した「人権意識調査」(3年)でも、「人権に関心を持っている。」

3年次 79.6%【86.2%】 ← 1年次 59.6%【54.4%】

「自分を大切にする気持ちが高まった。」

3年次 67.1%【68.6%】 ← 1年次 63.0%【65.7%】

「人間関係の大切さを学んだ。」

3年次 87.1%【82.2%】 ← 1年次 87.2%【89.8%】

「差別的な言動を見聞きした時、どのような態度をとるか。」

○『差別を指摘して話し合う。差別はいけないと伝える努力をする。』

3年次 48.8%【47.8%】 ← 1年次 44.0%【43.0%】

○『何もせずに黙っている。』

3年次 16.4%【15.9%】 ← 1年次 21.8%【23.0%】

3年間の学習を通じて人権に対する意識がかなり高くなっている。また、自己肯定感や他者との共生を大事にしようとする肯定感も上昇している。昨年同様、差別に直面した時、沈黙せず何らかの行動を起こそうとする意識が約10%上昇していることは3年間の大きな成果である。

進路指導

「進路について学校は必要な情報や機会を提供している。」

生徒 85.8%【89.1%】 1年 86.6%【91.7%】

2年 88.6%【84.1%】 3年 83.0%【91.6%】

「放課後や土曜日、長期休業中の講習、校内模試など進路実現に向けて取り組んでいる。」

生徒 77.9%【80.6%】 1年 72.1%【80.2%】

2年 78.8%【75.1%】 3年 82.6%【85.7%】

「進路相談やHRなどで熱心に進路指導している。」

生徒 77.2%【75.9%】 1年 71.0%【74.3%】

2年 80.3%【80.3%】 3年 79.9%【81.9%】

各学年での進路プロジェクト会議(進路指導部と学習指導部の連携会議)を軸に、生徒情報や進路課題の共有、具体的な指導方針の協議等で、生徒への進路についての働きかけ一定取り組めた。特に3年生は進路プロジェクト会議で、生徒の状況や進路情報をこまめに共有し、きめ細やかな指導にあたることができた。大学見学会を1年次12月に、また2年次7月には大学専門学校の体験授業を実施し早い時期での意識づけに取り組んだ。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 【 】内はH25の肯定率	自己評価
1. 確かな学力	ア わかりやすい授業づくり	ア. 授業改善サイクルの充実を図る。年2回の授業アンケートだけでなく、日常の生徒との対話を通じて授業改善に努める。各教員は授業アンケートごとに改善点について授業改善シートを作成する。	生徒向け学校教育自己診断 「わかりやすい授業」【56.9%】 「学力を伸ばす工夫」【64.6%】 「授業が静かで集中できる」【57.4%】 等授業関連項目の肯定率5%向上 授業改善シートの提出100% 各教科での研究授業の実施 授業での言語活動の実施状況	7月の授業アンケート結果をもとに各自また教科で1学期の授業の振り返り(8月)。2学期の授業で授業アンケート結果を踏まえ、授業についての考えや授業改善の具体策を生徒にフィードバック。授業改善シートを提出。(9月)授業改善、研究授業の実施(10月-11月)第2回授業アンケート(12月)をもとに授業改善の効果の振り返り。授業改善シートを再度提出。以上の流れのもとに授業改善には一定取り組むことができた。(○)
	イ 「考える」授業づくり	イ. 授業での言語活動を重視し、小グループでの学習活動や発表の機会を取り入れる。また、各エリアでの学習の充実を図り、エリア発表会で学習成果を発表する。	エリア発表会の継続実施 生徒向け学校教育自己診断 「エリアや授業は将来の役に立つ」【85.0%】 H25の肯定率と同等かそれ以上	生徒向け学校教育自己診断 「わかりやすい授業」 58.1% 【56.9%】 「学力を伸ばす工夫」 67.5% 【64.6%】 「授業が静かで集中できる」 63.1% 【57.4%】 「生徒の学力向上に熱心な先生が多い」 67.6% 【63.6%】 目標の5%アップには至っていないが、わかりやすい授業、学力を伸ばす工夫の肯定評価は一定上がっている。教員それぞれの目に見える形での工夫、努力が生徒にある程度伝わっていると言える。授業規律の徹底、授業に集中できる学習環境づくりという点では5%を超えて上昇。学年や教科で連携しての取り組みで改善が進んだ。引き続き、教員相互が連携して授業改善に取り組んでいく必要がある。(○) 2月12日にエリア発表会を実施予定。(すばるH)発表等の言語活動は、エリア指定科目や選択授業等の探求型授業において取り組んでいる。英語や国語等の授業でも、発話練習や音読、作品鑑賞等で言語活動の工夫に取り組んでいる。(○) 生徒向け学校教育自己診断 「エリアや授業は将来の役に立つ」 85.3% 【85.0%】 普通科総合選択制高校アンケート(3年) 「普総選高校で学んでよかった」 90.6% 【91.8%】 平均 83.8% 【83.5%】 「進路は選択したエリアと関連があった」 69.8% 【71.9%】 平均 50.3% 【51.9%】 昨年に続き依然85%を超える高い評価である。普通科総合選択制高校でエリアに分かれ、興味関心に基づいた学習ができることへの期待(1年)だけでなく、2、3年生のエリアで学習することへ肯定感や有用感も高い。(○)

府立金剛高等学校

<p>2. 豊かな人権感覚の醸成</p>	<p>ア 生徒相互の関わり、協働性の重視 自尊感情や相互の信頼感を醸成する人権学習、総合学習、学校行事</p> <p>イ 校外での実習や体験、発表の機会 地域活動への積極的な参加</p>	<p>ア. 新入生オリエンテーションからクラススタートアップ、個人面談、そしてクラスづくりに至る取り組みの充実を通じて、安心感のある高校生活のスタートを支援する。</p> <p>イ. 生徒の実態に即し、当事者との出会いや体験等、生き方を考えさせる人権学習、総合学習を企画する。 新教育課程3年目にあたり、3年間の人権学習、総合学習の流れを整理、総括する。</p> <p>ウ. 行事等のクラス活動を通じて、生徒相互の関わりや協働性を育てる。また、身近な生徒への理解や頑張りを素直に応援できる信頼関係を構築する。</p> <p>エ. 校外での実習や体験的な学びの機会を模索する。</p>	<p>生徒向け学校教育自己診断 「人権問題の理解」【84.1%】 「社会の新しい課題を学ぶ機会」【78.5%】 「HRや総合で生き方や将来について考えたか」【72.9%】 H25の肯定率と同等かそれ以上 「金剛高校に満足しているか」【82.8%】 「一人ひとりが尊重され気軽に話せるクラスか」【79.2%】 H25の肯定率と同等かそれ以上 校外での実習等実施状況、成果</p>	<p>生徒向け学校教育自己診断 「人権問題の理解」 83.5% 【84.1%】 「社会の新しい課題を学ぶ機会」 77.7% 【78.5%】 「HRや総合で生き方や将来について考えたか」 81.5% 【72.9%】 学年によって取り組む時間数の違いはあるものの3年間を通じて、多様な人権学習、総合学習に取り組めた。生徒の肯定的評価も高い。(○) 「金剛高校に満足しているか」 81.6% 【82.8%】 「一人ひとりが尊重され気軽に話せるクラスか」 83.9% 【79.2%】 新入生オリエンテーションからクラススタートアップ、個人面談、そして遠足(クラス活動)に至る流れの中で、入学当初のクラスづくりは丁寧に取り組めた。行事等のクラス活動を通じて、生徒相互の関わりから協働性も育まれている。80%を超える生徒が金剛高校での生活に満足(安心)しており、その中で学校、クラスが、安心できる居場所だと感じている生徒が増えている。(○)</p> <p>人権意識調査(3年) 「人権に関心を持っている」 3年次 79.6%←1年次 59.6% 「自分を大切にする気持ちが高まった」 3年次 67.1%←1年次 63.0% 「人間関係の大切さを学んだ。」 3年次 87.1%←1年次 87.2% 「差別的な言動を見聞きした時の態度」 ・『差別を指摘し話し合う。伝える努力をする』 3年次 48.8%←1年次 44.0% ・『何もせずに黙っている』 3年次 16.4%←1年次 21.8% 3年間の学習を通じて人権に対する意識がかなり高くなっている。自己肯定感や他者との共生の肯定感も上昇している。差別に直面した時、沈黙せず何らかの行動を起こそうとする意識が上昇していることは3年間の大きな成果である。(○)</p> <p>幼稚園、保育園、支援学校、福祉施設での実習、交流は、例年同様今年もしっかりとできた。生徒の参加度も高く、実習、交流先の評価も高い。福祉の授業では、福祉施設との複数回の相互訪問、交流ができた。 今年度模索した、福祉の授業での小学校の支援学級との交流は諸般の事情で実現に至らなかったが、次年度はぜひ実現させたい。(○)</p>
<p>3. 生徒支援体制の充実</p>	<p>ア 生徒の実態把握 ときめ細やかや支援、指導</p>	<p>ア. 生徒支援カード(1年生)の情報を学年会議、教育相談委員会で共有する。必要に応じて支援教育コーディネーターと連携し、本人や保護者との面談を早期に実施し、相談にあたる。</p> <p>イ. 教育相談委員会でも生徒状況の経過観察を行い、必要があれば学年と協議の上ケース会議を開く。外部機関や専門家とも連携して、支援にあたる。</p>	<p>生徒向け学校教育自己診断 「問題を見逃さず相談に応じてくれる」【66.6%】 「社会の新しい課題を学ぶ機会」【78.5%】 H25の肯定率と同等かそれ以上 ケース会議の開催実績、支援の成果</p>	<p>生徒支援カードはまだ十分に活用しきれていない。人権教育委員長を軸に、教育相談委員長、支援教育コーディネーターの連携が強化され、支援や配慮の必要な生徒情報の共有が進んだ。次年度に向け、内容の改訂と積極的な活用について協議をしている。担任を窓口にして丁寧な支援はある程度できている。(○)</p> <p>生徒向け学校教育自己診断 「問題を見逃さず相談に応じてくれる」 69.9% 【66.6%】 「社会の新しい課題を学ぶ機会」 77.7% 【78.5%】 教育相談委員会だけでなく、人権教育推進委員会でも支援や配慮の必要な生徒の経過観察を行っている。ケース会議はほぼ学期ごとに開催。SCや外部専門家との連携、ケース会議の定例開催を通じて、支援の必要な生徒理解が進んだ。当該生徒の支援計画の作成にも取り組んでいる。(○)</p>

府立金剛高等学校

4. 規範意識の醸成	<p>ア 基本的生活習慣の確立</p> <p>イ 部活動の促進</p>	<p>ア. 生徒指導部と学年が一体となって遅刻、頭髪、服装、原付等の指導を行う。 あいさつ、特に朝のあいさつの励行を全教員で推進する。</p> <p>イ. さまざまな機会を通じて、新入生への部活動への参加を積極的に推進する。</p>	<p>年間遅刻者 1800 以下。 生徒向け学校教育自己診断 「学校生活全体の指導は適切か」【75.2%】「遅刻、頭髪、服装、原付等の指導は適切か」【69.3%】H25の肯定率と同等かそれ以上 新入生の70%入部、60%定着</p>	<p>昨年の遅刻者は1月末で1792、年度末で1894。 今年度は、3年生が昨年より多いが、1年生、2年生は減少。特に2年生は半減。学年と生活指導部が連携して遅刻指導にあたる中で年々遅刻者数は減少してきている。今年度はさらに減少し、年度末集計で1723。目標1800以下を達成。(◎)</p> <p><u>生徒向け学校教育自己診断</u> 「学校生活全体の指導は適切か」 79.4% 【75.2%】 「遅刻、頭髪、服装、原付等の指導は適切か」 72.7% 【69.3%】</p> <p>概ね生徒は、学校の規則、指導を、みんなで守るべきもの、指導は適切と理解している。(○)</p> <p>1年生のクラブ加入は1学期70%を超えた。 現時点でも約60%の生徒がクラブ活動を継続している。(○)</p>
5. 進路実現	<p>ア 「進路プロジェクトチーム」の活性化</p>	<p>ア. 学力生活実態調査結果を有効活用する。 定期的な面談等を通じて、生徒それぞれの進路への見通しを持った学習指導に役立てる。</p>	<p>学年会議、教科会議での共有 学年通信の作成 個別面談での活用</p>	<p>各学年の「進路プロジェクトチーム」(進路指導部と学習指導部の連携会議)では、生徒の実態に即して進路を意識した学習指導に取り組んでいる。特に、3年生では、学年会議とも連動し、生徒の学習状況、進路情報を共有し、きめ細かい進路指導にあたっている。(○)</p> <p>1,2年生ではLHRで学力生活実態調査結果の活用方法について解説したり、必要に応じての面談を行うなど、個別生徒の学習指導に活用しているが、学年の生徒層の学習実態の分析には十分に活用しきれていない。(△)</p>
6. 広報活動と地域連携の充実	<p>ア 中学校の教員や生徒、保護者、教育関係者への発信</p> <p>イ 地域との多面的な繋がり</p>	<p>ア. 中学校の教員や生徒、保護者、教育関係者に対し、引き続き丁寧できめ細やかな広報活動を展開し、本校のミッション、学びの特色を広く知らしめる。</p> <p>イ. さまざまな機会を活用して地域や本校の教育実践と繋がる学校、施設、団体と多面的に繋がり、「地域に根ざし、地域とともに歩む金剛高校」の存在意義をより確かなものにしていく。</p>	<p>富田林市内の各中学校長、学校協議会委員の肯定的評価 藤陽中学校区すこやかネット、地域(富田林市4班)の小中高校園長会(月1回)での肯定的評価 交流・連携先の施設、団体、幼稚園、保育所、学校等の肯定的評価 学校協議会委員の肯定的評価</p>	<p>7地区(大和川以南)だけでなく、8地区の堺市(西区を除く)にも、中学校訪問等広報活動を精力的に行った。富田林市内や隣接市、区の中学校の訪問回数は昨年比で増えている。 本校主催の学校説明会4回、うち一回は体験授業・クラブも併せて実施。共生推進教室の説明会も2回実施。校外での学校説明会にも多数参加。 例年の中学校訪問に加え、7地区(大和川以南)、柏原市、堺市(西区を除く)といった地域の約70の中学校を次年度募集定員数の発表12月-1月に再度訪問。 中学2年生の高校体験(体験授業)も1月に富田林市の2校受け入れた。(◎)</p> <p>地域の幼小中高の校園長会やすこやかネット理事会、学校協議会のいずれにおいても、地域の高校としての本校の取り組み、地域との連携、生徒の成長に対する評価はいずれも高い。 富田林市内の小学生を対象としたわくわく実験室を年5回開催。いずれの会も好評。毎回理数科学エリアの2年生が小学生の実験指導にあたっている。 中学校区のクリーン活動は学校行事と重ならないよう年度当初に日程調整し、積極的に参加している。第1回(11月)に約150人、第2回(2月)も約150人の生徒が参加。教員もクラブ顧問を中心にそれぞれの回に15名程度が参加。 実習、交流をさせてもらっている幼稚園、保育園、支援学校、福祉施設、いずれの評価も高い。(◎)</p> <p>12月に国の重要伝統的建造物群保存地区である寺内町の旧田中家で、「金剛高校じないまち芸術展」を開催。芸術系クラブや授業の作品展示や演奏、歌唱発表を行い好評を博した。昨年開催したこの「じないまち芸術展」がきっかけで、6月の石上露子祭や11月の寺内町フェスティバルに美術部、吹奏学部が参加させてもらった。(◎)</p>